

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意

開竅剤 涼開剤 4

しせつたん
紫雪丹

清熱開竅・鎮瘧熄風

石膏・寒水石・滑石・磁石各 1500 g・犀角・羚羊角・青木香・沈香各 150 g・
 玄参・升麻各 500 g・炙甘草 240 g・丁香 30 g・朴硝 5000 g・硝石 96 g・
 麝香 1.5 g・朱砂 90 g・黄芩 300 g
 成薬、1日2回 1.5~3 g ずつを服用する。

外台秘要

<主治>

熱邪内陷心包・動風

高熱、煩躁、意識障害、うわごと、凝視、手足のひきつり、項部の強直、甚だしいとけいれん、口唇の乾燥、尿が濃い、便秘、舌質が紅絳、脈が細数などを呈す。

小児の熱盛動風（熱性けいれん）

<病機>

温熱病の経過で熱邪が熾盛になり、心包に内陷して動風が生じた状態である。

熱邪が心包に内陷して神明を擾乱するので、意識障害、煩躁、うわごとが生じ、熱邪が内外に充斥するために高熱（夜間に甚だしい）を呈する。熱邪が陰津を消耗し肝陰が不足して筋を滋養できないと、筋脈が拘縮して、動風が発生し、両眼凝視、手足のひきつり、項部の強直、甚だしいとけいれんを引き起こす。口唇の乾燥、尿が濃い、便秘、舌質が紅絳、脈が細数などは熱盛傷陰を表わす。

小児の熱盛動風（熱性けいれん）も機序が共通している。

<方意>

清熱開竅と熄風止瘧を併施する。

甘寒の石膏・寒水石・滑石で清熱し、清肝熄風の羚羊角で止瘧し、清心解毒の犀角、芳香清心の麝香で開竅神醒する。以上が主薬である。甘寒清熱を用いて苦寒を用いないのは、苦燥による傷津を防止するためである。清熱解毒の玄参・升麻、行気開竅の青木香・丁香・沈香、泄熱散結の朴硝・硝石、重鎮安神の朱砂・磁石・黄芩は、主薬の効能を補佐する。玄参は養陰生津に、炙甘草は和中、生津に働く。全体で清熱開竅、熄風止瘧、安神の効能が得られる。

<参考>

本方（紫雪丹）と牛黄清心丸・至宝丹は、熱病の竅閉神昏に常用され、「三宝」と称される。